

共にわかり合い一緒に作り上げる「生活」の授業 ～「のりもので出かけよう」の実践から～

堀井和子

1. テーマ設定の理由

中学部3年は、男子2名、女子4名の計6名で構成されており、担任は2名である。生徒同士は、入学してから2年間一緒に過ごしてきた仲間として、お互いの存在を意識し合っている。しかし、一人ひとり個性が強く、興味の対象もそれぞれ違うため、一つの活動に全員が楽しんで取り組むことは難しい。コミュニケーションの面から見ても、自分の思いを一方向的に話す子、発音が不明瞭なため思いが伝わりにくい子、言葉はあるが伝達手段としてうまく使えない子など、問題点は様々である。

本校中学部では、「生活」の授業の一つとして「散歩」を教育課程に位置づけている。学校での散歩は「外に出かけるというワクワクドキドキした気持ちを大切にしながら、生徒も教師も同じ時間を共有して同じ発見、同じ体験をすることができる」ものだと捉え、毎年取り組んでいる。本学級でも年度当初から早速散歩に出かけてみた。しかし、Y子は校舎から出たがらず、T子とH男はどんどん先へと歩きたがり、D子とN男とM子はその時の気分で度々立ち止まるといった具合で、6人がバラバラに行動してしまった。とてもワクワクドキドキどころではない状態であった。

かかわり、コミュニケーションを大切にしながら、なんとか6人一緒に活動できないだろうか。そのためには、子どもの興味・関心から出発した楽しく、わかりやすく、生活に根ざした題材からせまればよいのではないか。そんな思いで生徒一人ひとりを見つめ直した時、Y子は電車が大好き、N男は車やバスが大好き、H男はドライブが大好きだということがわかってきた。そこで、共通の楽しみである「のりもの」を利用した散歩に取り組むことにした。この活動を糸口に、生徒同士、そして生徒と教師が共にわかり合いながら一緒に作り上げる授業について探っていきたいと考え、このテーマを設定した。

活動にあたっては、授業グループが目指す5つのキーワードと照らし合わせ、次の5つについて大切にしながら取り組むことにした。

*生活に根ざした授業

バスや車は、毎日の通学はもちろん家庭においても欠かすことのできない身近なものである。違うバス路線や電車の利用へと経験を広げていくことで、公共の交通機関利用のマナーを身につけたり、社会のいろいろな人々とかかわったりすることができる。この活動での経験が実生活においても生かされることが期待できる。

*子どもも教師もわかる授業

「今日はこれに乗る」という目的をはっきりさせ、わかりやすい活動としたい。写真カードやパンフレットなど視覚に訴えるものを利用し、互いにわかり合えるよう考えていきたい。

*子どもとのコミュニケーションを大切にす授業

出かける前、今回は何に乗りたいのか、子ども一人ひとりの思いを確認し、相談しな

がら行き先を決める。出かけ先でも共にわかり合いながら活動を作り上げていきたい。

***友だちとのかかわりを大切にした授業**

教室を離れ、知らない人が行き交う街へとび出すと、急に知った顔ぶれが頼りになり、友だち同士のかかわりも生まれやすくなる。そんな様子を教師はじっと見守り、どうしても必要な場面で初めて支援するという姿勢で臨みたい。

***楽しい授業**

大好きな乗り物に乗って知らない街を訪れるという活動は、それだけでワクワクドキドキする要素をたくさん含んでいる。散歩の中での新たな発見や予期せぬ出来事を子どもと共に体験し、同じ思いを味わい、楽しさを共有したい。

2. ねらい

(1) 単元「のりもので出かけよう」のねらい

- ・乗り物で出かける活動を通して、友だちや教師とかかわり合い、わかり合い、一緒に活動を楽しむことができる。
- ・公共の交通機関の利用を通じて、身近な社会とかかわり、経験を広げる。

(2) 個人の実態とねらい

	実 態	ね ら い
D子	路線バスを利用して一人で登下校できる。発音が不明瞭だが、話すことには積極的である。友だち思いで、気分のムラから活動に参加できない友だちを、その気になるまで根気強く待つ。一方で本人にも気分にムラがあり、活動への参加に時間がかかることもある。	自分の思いを伝え、みんなと折り合いをつけながら、活動を楽しむことができる。自分の乗り物について調べ、散歩の計画を立てることができる。
T子	路線バスを利用して一人で登下校できる。決まった話題を教師に一方的に話す。自分から友だちにかかわることはほとんどないが、友だちの行動をよく観察しており、苦手な友だちが近づいてきただけで、さっと身をかかわす。	友だちとかかわりながら一緒に活動する楽しさを知る。自分の乗り物について調べ、散歩の計画を立てることができる。
N男	自宅から一人で歩いて登下校している。バスや車が大好きで、よく話題にする。クラスのムードメーカー的存在で活動を引っ張っていく。指示されると気分を損ね、活動に参加できなくなることがある。	自分の思いを出しつつ友だちや教師の意見も聞き入れ、活動できる。乗り物の利用を楽しみながら、生活経験を広げる。
H男	路線バスを利用して母親と一緒に登下校している。言葉はあるが、伝達手段としてはうまく使えない。教師の指示も伝わりにくい。広い場所を走り回るのが好きで、散歩に出かけると突然走り出すことも多い。しかし、一旦止まると今度は動き出すのに時間がかかる。	友だちや教師の存在を意識しながら、みんなと一緒に活動できる。乗り物の利用を楽しむ。
M子	母親の車の送迎で登下校している。言葉数は少ないが、人なつっこい。気分にムラがあり、活動への参加に時間がかかるが、やり始めると積極的に取り組む姿も見られる。	自分の思いを出しつつ友だちや教師の行動も見て、一緒に活動できる。乗り物の利用を楽しみながら、生活経験を広げる。
Y子	登校はスクールバス、下校は母親の車による。電車が大好きで、よく家から電車の絵本やビデオを持参する。おしゃべりが大好きだが、単語レベルの発話で発音も不明瞭のため、思いが伝わらないことも多い。新しい環境に慣れるのに非常に時間がかかる。	自分の意見を伝えつつ友だちや教師の意見も聞き入れ、わかり合いながら活動できる。乗り物の利用を楽しみながら、生活経験を広げる。

3. 計画

- <活動の流れ> 金曜1～4限 散歩
木曜5限 前回の散歩を振り返り、次回の計画を立てる
- <年間計画> 1学期 いろいろな乗り物にのってみよう
2学期 自分たちで計画を立てて乗り物にのろう
3学期 散歩のまとめを作ろう（卒業文集）

4. 活動の実際

(1) 散歩の内容

日時	活動内容	利用した乗り物
4月25日 10:00～12:30	金沢駅で入場券を買ってホームへ	ふらっとバス材木ルート 路線バス
5月2日 9:00～12:00	電車で金沢駅から森本駅へ	JR電車 JRバス
5月30日 9:00～12:25	電車で金沢駅から内灘駅へ	ふらっとバス此花ルート 北陸鉄道電車
6月20日 9:30～12:30	電車で野町駅から鶴来駅へ	路線バス 北陸鉄道電車
6月27日 9:30～12:00	犀川の河原で遊ぶ	ふらっとバス菊川ルート
7月4日 9:30～12:10	金沢駅のハンバーガーショップでH男の誕生会	路線バス ふらっとバス此花ルート 城下町金沢周遊バス
7月11日 9:00～12:00	電車で金沢駅から小松駅へ	プレサージュ（大学公用車） JR電車
8月5日 9:00～15:00	電車で金沢駅から七尾駅へ	プレサージュ JR電車
9月5日 9:30～12:10	教生先生も一緒に浅の川とN男の家へ	ふらっとバス材木ルート
9月12日 9:30～12:10	児童会館でプラネタリウム	ふらっとバス菊川ルート スクールバス
9月19日 10:30～12:00	周遊バスで一周	城下町金沢周遊バス
10月10日 10:30～12:00	路線バスで一周	路線バス
10月17日 10:30～12:00	ふらっとバスで一周	ふらっとバス材木ルート
10月21日 9:30～14:50	河合先生（旧担任）に会いに聾学校へ 電車で野々市駅から小松駅へ	プレサージュ JR電車
10月31日 9:30～12:15	電車で津幡駅から福岡駅へ	スクールバス JR電車
11月21日 9:45～12:00	のっティで一周	路線バス 野々市町コミュニティバス「のっティ」
12月12日 10:45～12:10	周遊バスで一周	城下町金沢周遊バス
12月19日 9:10～11:50	電車で金沢駅から宇野気駅へ	路線バス JR電車 城下町金沢周遊バス

「ふらっとバス」は「金沢ふらっとバス」の略称であり、金沢市の公共交通機関が不便な所を中心に走る、循環型のバスである。

(2) 実践例

① 大好きな電車を通して会話が広がった Y 子

環境の変化が苦手な Y 子は、年度当初新しい教室に入ることも新しい担任と行動することも拒んだ。初めての散歩の時も、クラスのみなどと出かけることを拒否し、「いかないの!」「おるすばん!」と言い張り、結局校舎から出ることができなかった。

4月25日、Y子は電車が大好きだとわかってきたところだったので、「電車を見に行こう」と写真を見せながら誘ったところ、初めて担任と出かける気になった。金沢駅に向かうバスの中では「でんしゃ、でんしゃ」と徐々に楽しそうな様子を見せはじめた。駅で入場券を買いホームに入ると、次々やってくる電車に歓声を上げ、跳びはねて喜んだ。この日の経験は、Y子が少しずつ担任に打ち解けるきっかけとなったようだ。

こうして、電車に関わった散歩を3回重ねた後の6月18日、Y子の母親が連絡帳でこんなことを知らせてくれた。

「散歩?」「お着替えありません」などと金曜日を待っているらしい発言をしていました。明日が金曜日じゃないということに不満があるようで、叫んでいました。

本校中学部では毎週金曜日を私服の日としている。Y子は「私服-金曜日-散歩」が関連づき楽しみにするようになり、それを家でも話題にできたのだと知り、嬉しかった。

6月27日、この日は話し合いで「ふらっとバス」に乗ることに決まり、初めて電車とは関係のない散歩に出かけることになった。Y子は「今度、電車に乗ろうね」の言葉にちょっとがっかりした様子だった。しかし、「でんしゃ、こんど」と何度も言いながらも、バスでの活動に参加できた。これまで一緒に出かけた経験とそこで築き上げた信頼関係があったからこそ、Y子は必ず近いうちに自分の思いはかなえられると確信でき、納得できたのかもしれない。

期待していた7月4日だが、この日も話し合いの末バスに乗ることになり、金沢駅まで行なったものの電車は見ずに帰ってきた。それでもカレンダーを見せながら「来週は電車に乗ろうね」と言うとY子は納得してくれた。「来週」という明日よりちょっと遠い未来でも見通しがもてるようになってきたのだ。

次週の7月11日、久しぶりに電車で出かけることができ、Y子が大喜びしたことは言うまでもない。「次は松任」などと車内放送が流れると「まっとう、まっとう」と真似をして嬉しそうだった。

2学期になり教育実習等の日程が入ってきたため、金曜日にまとまった時間が取れなくなってきた。そのため、近場でバスに乗ることくらいしかできず、電車での散歩はなかなか実行できなかった。そこで、小間切れの時間を利用して子どもたちと一緒に1学期の散歩の写真をアルバムにまとめた。するとY子はそのアルバムがお気に入りになり、いつも持ち歩いては「こんど、でんしゃ、いこうね」と言うようになった。発音不明瞭のY子だが写真を媒介にすればいろいろな人にも話が通じ、教育実習生にも「きょうせいせんせいと、でんしゃ、いこうね」と話しかける姿も見られた。



アルバムを見て会話する Y 子

家での会話にも変化が現れている。12月15日の連絡帳に次のように書いてあった。

「(つき?あした?) はでんしゃ」といっていました。「今日何のったの?」ときくと「しゅうゆうバス」とちゃんと教えてくれました。

教師が「19日は電車に乗ろうね」と話したことや、学校から出かけた電車以外の散歩についても、きちんと家で伝えることができたのだ。その他にも、2学期末に保護者に行なったアンケート調査によると、Y子はこれまで家で「ふらっとバス」「ろろろろバス(路線バス)」「のっティ」「プレサージュ」について話題にしたことがあるとわかった。

大好きな電車を通じて、どんどん会話が広がってきたY子。話す相手が増え、話す内容も増え、単語から2、3語文の発話へと広がってきた。その背景には、散歩に出かける前の気持ち作りから帰った後の振り返りまで、その一連の活動の中でわかり合えた経験の積み重ねがあると考えられる。散歩での楽しい思いが言葉となってあふれ出たこともその変化の要因の一つではないだろうか。

②散歩の中でかかわりが生まれた6人

普段学校の中ではまとまって行動することの難しい6人だが、慣れない場所へと出かけると、迷子にならないように友だちや教師の存在を確認し、自然と互いの距離も縮まるものだ。そんな中で生まれた友だち同士のかかわりについて、いくつか述べてみたい。

4月25日、帰りのバスに乗る頃から雨が降り出し、降りる頃にはどしゃ降りになってしまった。4本しか傘を持ってきておらず、どうしようかと考えていたら、D子とY子があいあい傘をし始めた。肩を寄せ合い歩く二人はとてもは微笑ましかった。

5月2日、初めて電車に乗った日、D子、Y子、M子、N男の4人が自然と一つのボックス席に座っていた。車窓からH男とD子の家が見えたときには歓声を上げ、そのボックスは盛り上がっていた。新しくなったばかりの森本駅ではエレベーター好きのN男のリードで一同エレベーターに乗り込み、狭い空間でお互いの存在感を味わった。

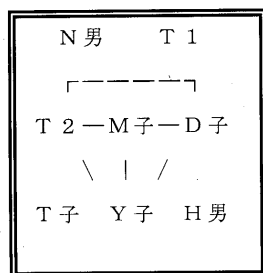
6月27日、犀川の河原で、M子が友だちや教師にくっついてはあちこち移動していたのが発展して鬼ごっこが始まった。M子が鬼でD子と教師二人が逃げていたのだが、そのうちN男とY子が応援し始め、それにT子も加わった。梅雨の晴れ間のさわやかな日にうっすら汗をかいて教師も共に楽しんだひとときだった。

7月11日、時間と費用の節約のため、学校から金沢駅までの往復は大学の公用車を利用

した。この8人乗りプレサージュに乗り込む時、友だち同士の相性の良し悪しが明瞭に現れた。しばらくの間この狭い空間に体を密着させて乗っていないなければならないのだから、M子の方が苦手なT子は特に席選びに慎重な様子だった。乗っては降り、また乗っては降りる様子を見守っていたら、やっと左図のように落ち着いた。車内では、M子がハンカチを投げたことがきっかけでM子、D子、Y子、そしてT2(教師)によるハンカチ投げ遊びが始まり盛り上がった。N男は助手席で運転気分を楽しみ、T子とH男はそれぞれ



4人で仲良くボックス席に



車内座席図

れに車窓の景色を楽しんだ。

9月4日木曜日、1学期の振り返り活動の時に、初めてパワーポイントを用いた教材を提示した。パソコンの画面に次々現れる写真に、子どもたちは引きつけられた。実際にマウスを動かす活動では、みんなで頭を寄せ合ってパソコンを囲み、画面に写った乗り物や友だちの名前を言っては盛り上がった。視覚に訴える教材の魅力を再確認し、教材研究の大切さを感じた。以後、木曜日の活動にパソコンは欠かせないものとなった。

10月21日、今回もT子はM子を避けていた。しかし、この日の午後、JR電車に乗ったとき、T子がM子、N男、他のお客さんと4人で一つのボックス席に座っていて驚いた。近くに他に空いている席がなかったこと、T子が窓側だったため席を立ちたくても立てなかったこと、T子とM子は斜め向かいだったため少し距離が保てたことなどもあったからかもしれないが、T子の前向きな姿勢に教師が嬉しく感じた出来事だった。

10月31日、この日はJR電車で初めて県境を越え、富山県の福岡駅で降りた。改築して4～5年という新しくモダンな駅舎の見学は、子どもたちだけでなく教師もワクワクする瞬間だった。またしてもN男がエレベーターを発見し全員で乗り込み楽しさを共有した。

日常の学校生活の中でも、年度当初と比べると、友だち同士のかかわりが増えてきたように思う。一回一回散歩を終える度に、一つひとつ共通の思い出が増え、少しずつ連帯感のようなものが生まれてきた最近の中3である。

5. まとめ

普段は全員揃っての活動は難しいが、「のりもので出かけよう」の活動を通して、子どもと教師の8人が同じ時間と体験を共有することができた。それは、子どもの興味・関心から出発した活動だったからだけでなく、その時々にお互いの思いを確認し、わかり合いながら一緒に活動を作り上げていったからだろう。その結果、「私服－金曜日－散歩」が関連づき楽しみにしている子、教師や友だちとのかかわりが少しずつ広がった子が出てきて、嬉しく思っている。

また、この活動にあたっては保護者の協力があったことを忘れてはならない。費用の面においてはもちろんのこと、家に帰ってからの会話等でもこの活動を盛り上げていただいた。2学期末に保護者に行なったアンケート調査によると、6人中5人の生徒が家でもこの活動を楽しみにしている様子とのことだった。また、その内の4人が散歩から帰った日に家でその日の散歩について話題にしており、中にはお家の人ともそこへ行きたいと言った子もいたということである。そして最後に、全員の保護者から「今後もこの活動を続けてほしい」との回答を得られたことを受け、さらに実践を積み重ねていきたいと考えている。